

座席ベルト試験

1. 総則

座席ベルト試験の実施にあたっては、「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」（平成14年国土交通省告示第619号）別添「座席ベルトの技術基準」の規定及び本規定によるものとする。

2. 試験条件

(1) 劣化試験

劣化試験における耐水性試験で使用する微量の湿潤剤は、水1Lに湿潤剤（例：アルキルフェノールと酸化エチレンとの縮合体）1gを加えたものとする。

(2) 巻取装置の試験

巻取装置の試験における巻込力試験においては、帯部及び帯部に取付けられている金具の質量の影響を受けない方法で実施する。

ただし、上部中間ガイドを用いたものにあつては、上部中間ガイド以外の影響を受けない方法で実施する。（図参照）

3. 試験記録及び成績

試験記録及び成績は、付表の様式に記入する。

3.1 当該試験時において該当しない箇所には斜線を引くこと。

3.2 記入欄は、順序配列を変えない範囲で伸縮することができ、必要に応じて追加してもよい。

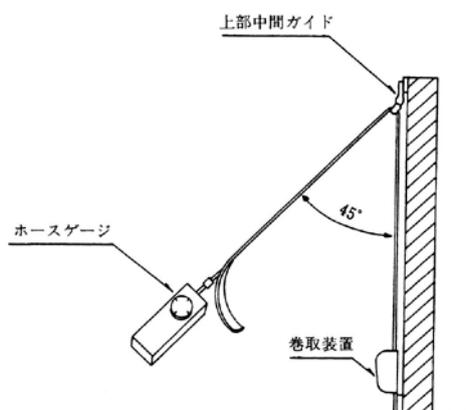


図 上部中間ガイド付き巻取装置の巻込力試験方法

付表

座席ベルトの試験記録及び成績

試験期日 年 月 日 試験場所 試験担当者

1. 当該座席ベルトを使用する自動車の車名・型式

2. 試験座席ベルト

座席ベルトの種類 バックルの種類

巻取装置の種類 プリテンション装置の種類

座席ベルト製作者名

3. 試験成績

(1) 帯部の試験 (3.1)

帯部の種類	①引張り強さ 試験 (N)	②荷重時の幅 試験 (mm)	③伸び試験 (%)	④エネルギー吸収試験	
				仕事量 (N・m)	仕事量比 (%)
腰用帯部					
肩用帯部					
肩腰連続帯部					

(注) ③及び④の試験については、(5)④の試験を実施する場合又は前面衝突時の乗員保護の技術基準に適合する自動車に装備されたもの(ただし、運転者席及び運転者席と並列の座席のうち自動車の側面に隣接するものに備えるものに限る。以下「前面衝突時の乗員保護の技術基準に適合する座席ベルト」という。)は、省略することができる。

⑤ 劣化試験					
(イ)耐光性試験 (N)	(ロ)耐寒性試験 (N)	(ハ)耐熱性試験 (N)	(ニ)耐水性試験 (N)	(ホ)耐摩耗性試験	
				摩耗試験1 (N)	摩耗試験2 (N)

(注) 摩耗試験2については、帯部が長さ調節具を通る場合に限り、実施する。

(2) バックルの試験 (3.2)

① 一般規定

(イ) 片手による解離性 適 ・ 否

(ロ) 片手による結合性 適 ・ 否

(ハ) 押しボタン等 面積 cm^2 最小幅 mm

表面(赤色系の色・操作方法の表示) 適 ・ 否

(注) (ロ)については、運転者席及びこれと並列の座席のうち自動車の側面に隣接するものに備える二種ベルトの場合に限る。

② 耐久性試験

バックルに損傷又は著しい摩耗がないこと 適 ・ 否

③ 解離力試験

バックルの解離力 N

(3) 巻取装置の試験 (3.3)

帯部の種類	①巻込力試験 (N)	② 耐 久 性 試 験		
		巻取装置の異常	作動状況	試験後の巻込力 (N)
腰用帯部 肩用帯部 肩腰連続帯部		有・無	良・否	

③ 残余の引出し量試験

帯部の有効長と引出し量の差 mm

④ 自動ロック位置試験

特殊ロック機構の有無 有 ・ 無

ロックするまでの帯部の移動量 mm

⑤ 緊急ロック試験

ELR の種類：車両減速感知式・帯部引出し加速度感知式・複数感知式

(イ) 試験加速度： $6.8\text{m/s}^2 \cdot 14.7\text{m/s}^2$
 ロック時の引出し量 mm } 判定 適・否

(ロ) 試験加速度 19.6m/s^2
 ロック時の引出し量 mm } 判定 適・否

(ハ) 試験加速度 2.94m/s^2
 ロック時の引出し量：50mm 超え } 判定 適・否

(ニ) 12度傾斜時の非ロック要件 適・否

(4) 長さ調節具の調節力試験 (3.4)

① 長さ調節具の操作容易性 適・否

② 調節力 正方向 N 逆方向 N

(5) アッセンブリ (3.5)

① 静荷重試験

(イ) アッセンブリにおける破損、離脱、亀裂、変形等の有無 有・無

(ロ) バックルの解離がないこと 適・否

② 移動量試験

ローラの移動量：腰用帯部 mm 肩用帯部（肩腰連続帯部） mm

③ 耐熱性及び耐寒性試験

プリテンシヨナ装置の周囲温度による作動 作動 ・ 非作動

④ 動的試験

(イ) 荷重体の異常な姿勢 有 ・ 無

(ロ) アッセンブリにおける破損、離脱、亀裂、変形等の有無 有 ・ 無

(ハ) バックルの通常解離性 適 ・ 否

(ニ) 荷重体の移動量：腰用帯部 mm 胸部 mm

(ホ) プリテンシヨナ装置の作動状況 適 ・ 否

⑤ 荷重試験

帯部の張力 N

- (注) 1. ②の試験については、④の試験を実施する場合又は前面衝突時の乗員保護の技術基準に適合する座席ベルトは、省略することができる。
2. ③の試験については、火薬式のプリテンショナ装置付きの場合に限る。
3. ④の試験については、プリテンショナ装置付きの場合を除き、(1)③及び④並びに(5)②の試験を実施する場合又は前面衝突時の乗員保護の技術基準に適合する座席ベルトは、省略することができる。
4. ⑤の試験については、プリテンショナ装置付きの場合に限る。

備考
